

## サガミトリゲモ *Najas foveolata* A.Br.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも個体数が少ない。

### 【形態】

沈水生の1年生草本。茎はよく分枝し、長さ10~25cmになる。葉は多少外側に反り返り、線形、長さ約1.5~2.5cm、幅約0.5mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は長さ2~2.5mmの葉鞘となり、葉鞘の先端は切形または円形で小刺がある。花期は7~9月、雌雄同株で花は葉腋につく。果実は1個の種子があり、種子は長楕円形で長さ2.5~3mm、表面には顕著な四~六角形の網目がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来北東部(小林 57860)、新城(小林 62492)、豊川宝飯(小林 79898)、蒲郡御津(小林 79979)、豊橋北部(小林 62462)、田原赤羽根(小林 72706)、足助(芹沢 71035)、下山(芹沢 83083)、小原(塚本威彦 1228)、豊田東部(畑佐武司 4847)、瀬戸尾張旭(芹沢 74919)生育区画数は比較的多いが、各区画とも1~2カ所で確認されているにすぎない。安城にもあるという(安城市史編集委員会, 2005)。

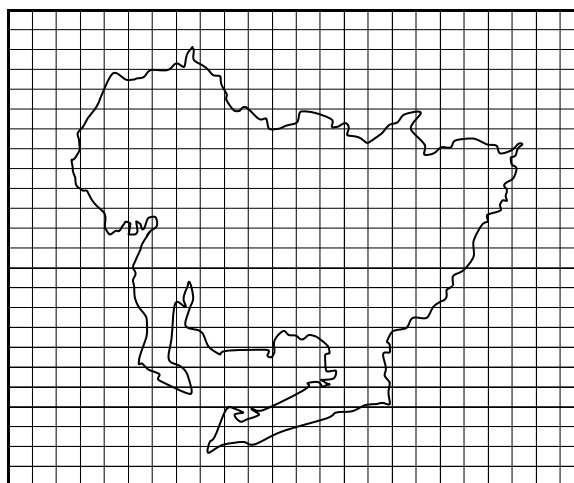
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球に生育する。

#### 【世界の分布】

東アジアに分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

谷戸田やそのわきの水路に生育する。池沼に生育することは少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。ほとんど谷戸田だけに生育しているため、耕作放棄により消滅する可能性も高い。イトトリゲモと異なり、近年増加しているという傾向も認められない。瀬戸市では、宅地開発事業のための土地買収に伴い大部分の水田が耕作されなくなり、危機的な状況に追い込まれた。

### 【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態が維持できるよう、配慮が必要である。

### 【特記事項】

ヒロハトリゲモとも呼ばれる。しばしばイトトリゲモと同所的に生育しているが、それより全体に大型で、葉の幅が広い。愛知県ではイトトリゲモよりはるかに希少な植物で、保全上の重要性も高い。

### 【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.102. 安城市, 安城.

### 【関連文献】

保草本 p.409、平草本 p.18、環境庁 p.365、SOS新版 p.126,128。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.